

経営情報システム -企業経営と情報技術-

単位数	ナンバリングコード		
2	DIF214		
	教員名	向原 強	
	専門	経営学, GIS, 経営情報システム	
	出身校等	北海道大学 大学院経済学研究科	
	現職	北海道情報大学 経営情報学部 教授	
授業形態			
前期印刷授業・後期印刷授業			
授業範囲	試験範囲		
教科書の内容すべて	授業範囲すべて		
	【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただしWebページ（通信教育部POLITEを除く）と生成系AIの参照は不可とする。 【試験に関する注意事項】 試験は、教科書「経営情報システム（第5版）」の内容から出題します。		
科目の概要			
<p>この科目では、現代の企業経営において不可欠な基盤となっている「経営情報システム」について、基礎理論から最新のビジネス応用までを包括的に学習します。</p> <p>大卒では3部構成になります。</p> <p>第一部では、企業経営と情報技術の関係を学びます。具体的には、サイモンが提唱した意思決定プロセスや、管理階層（現業、管理、戦略）ごとに求められる情報システム（DSS、EIS等）の違い、さらには企業が守るべき情報倫理とセキュリティの要諦を理解します。また、ハードウェアやネットワークのIT基礎知識に加え、現代の主流であるクラウドコンピューティングの仕組みを習得します。</p> <p>第二部では、システムの開発と組織管理に焦点を当てます。伝統的な開発手法から、柔軟な「アジャイル（スクラム）」、プロジェクトマネジメントの国際基準（PMBOK）まで幅広くカバーします。加えて、組織の知恵を価値に変える「ナレッジマネジメント（SECIモデル）」や、業務プロセスの「見える化」、サプライチェーンマネジメント（SCM）についても深く掘り下げます。</p> <p>第三部では、新しいビジネスの展開を学びます。インターネットビジネスの戦略、最新のデジタルマーケティング、そしてデジタル化の「二周目」に直面する出版や音楽業界の課題を分析します。さらに、ブロックチェーン、NFT、Web3、そしてメタバースといった次世代技術が、将来のビジネスをどう変革するのか、その可能性を探究します。</p>			
授業における学修の到達目標			
情報処理に関する基礎概念を修得した上で、経営学的な観点から経営情報システムの変遷や、理論的フレームワークを理解する。			

講義の方針・計画

- 第1回 情報化社会における企業経営
- 第2回 企業活動と情報システム
- 第3回 情報倫理と情報セキュリティ
- 第4回 情報技術に関する基礎知識
- 第5回 クラウドコンピューティング
- 第6回 情報システムの計画・設計・開発
- 第7回 ナレッジマネジメント
- 第8回 意思決定支援のソフトウェア
- 第9回 ビジネスプロセス
- 第10回 生産管理とサプライチェーンマネジメント
- 第11回 インターネットビジネスの戦略とビジネスモデル
- 第12回 デジタルマーケティング
- 第13回 デジタル財とデジタル市場
- 第14回 ブロックチェーンと仮想通貨
- 第15回 メタバースと新ビジネス

準備学習

印刷授業は、教科書や通教POLITEなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。

わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。

通教POLITEは、教科書の各章にもとづいて、課題とそのヒントが提示されます。

それらの課題に焦点をあて、教科書を読んでください。レポートおよび試験では、これらの課題に関する論述問題が含まれます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法

印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。

成績評価の方法およびその基準

インターネット科目試験:50% Moodle小テスト:30% Moodle課題 20%

教科書

書名：経営情報システム 第5版
著者名：宮川 公男 監修 上田 泰 編著 飯島 淳一 編著
発行所：中央経済社
ISBN：978-4502545610
※2025年に大幅改訂されました。

参考書

なし

その他

なし

試験期間

シラバス検索画面トップページ (<https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/>) 下部の「2026学年暦」を参照

学習プリント

あり

教職科目

商業5の1（必修）、商業6の4

関連受講科目

なし

担当教員の実務経験

なし